

身体障害者診断書・意見書（肢体不自由障害用）

総括表

| | | |
|--|------------|---|
| 氏名 | 年 月 日生（ 歳） | 男女 |
| 住所 | | |
| ① 障害名（部位を明記） | | |
| ② 原因となった 疾病・外傷名 | | 交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他（ ） |
| ③ 疾病・外傷発生年月日 | 年 月 日・場所 | |
| ④ 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。） | | |
| 障害固定又は障害確定（推定） | | |
| 年 月 日 | | |
| ⑤ 総合所見 | | |
| 〔将来再認定 要（軽度化・重度化）・不要〕 〔再認定の時期 年 月〕 | | |
| ⑥ その他参考となる合併症状 | | |
| 上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 | | |
| 年 月 日 | | |
| 病院又は診療所の名称 | | |
| 所 在 地 | | |
| 診療担当科名 | | 科 医師氏名 |
| 印 | | |
| 身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 | | |
| 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に | | |
| ・該当する（ ）級相当 | | |
| ・該当しない | | |
| 注意 | | |
| 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、痺心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 | | |
| 2 肢体不自由のある者の場合は、全ての肢体不自由について記入してください。 | | |
| 3 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、歯科医師による診断書・意見書（様式第2号 別紙2（その2））を添付してください。 | | |
| 4 障害区分や等級決定のため、愛知県から改めて次ページ以降の部分についてお問合せをする場合があります。 | | |

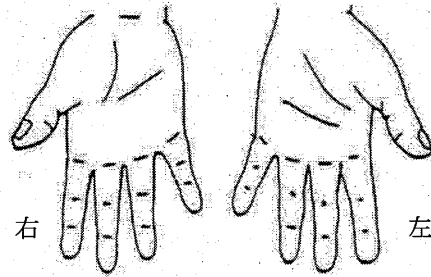
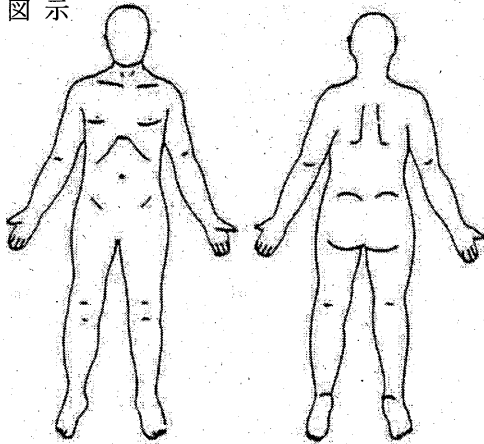
別紙3

肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○で囲み、追加所見がある場合は、余白又は備考欄に記入すること。）

- 1 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚麻痺・異常感覚
- 2 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙攣性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4 排尿・排便機能障害：なし・あり
- 5 形態異常：なし・あり

参考図示



| 右 | | 左 |
|---|---------|---|
| | 上肢長 cm | |
| | 下肢長 cm | |
| | 上腕周径 cm | |
| | 前腕周径 cm | |
| | 大腿周径 cm | |
| | 下腿周径 cm | |
| | 握力 cm | |

×変形 ■切離断 ▨感覚障害 ≡運動障害
 (注) 関係ない部分は記入不要

歩行能力（補装具なしで）正常に可能： m以上歩行不能

起立位（補装具無しで）正常に可能： 分以上困難：片脚での起立位保持（可・不可）

動作・活動 自立-○ 半介助-△ 全介助又は不能-×、（ ）の中のものを使うときはそれに○を付けること。

| | | | | |
|-----------------------------|---|---|------------------------------|-----|
| 寝返りをする | | | シャツを着て脱ぐ | |
| 足を投げ出して座る | | | ズボンをはいて脱ぐ（自助具） | |
| 椅子に腰掛ける | | | ブラッシで歯を磨く（自助具） | 右 左 |
| 立つ（手すり、壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具） | | | 顔を洗いタオルでふく | |
| 家の中の移動（壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具、車椅子） | | | タオルを絞る | |
| 洋式便器に座る | | | 背中を洗う | |
| 排泄の後始末をする | 右 | 左 | 二階まで階段を上って下りる（手すり、つえ、松葉づえ） | |
| （箸で）食事をする（スプーン、自助具） | 右 | 左 | 屋外を移動する（家の周辺程度）（つえ、松葉づえ、車椅子） | |
| コップで水を飲む | 右 | 左 | 公共の乗物を利用する | |

注：身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に○が付いている場合、原則として自立していないという解釈になります。

計測法：

- 上肢長：肩峰→橈骨茎状突起
- 下肢長：上前腸骨棘→（脛骨）内果（小児等の場合は別記）
- 上腕周径：最大周径
- 前腕周径：最大周径
- 大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径
- 下腿周径：最大周径

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は必要な部分を記入)

| 筋力テスト () | 関節可動域 | 筋力テスト () | 関節可動域 | 筋力テスト () |
|-----------|---------------------------------|-----------|---------------------------------|-----------|
| 筋力テスト () | 180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 | 筋力テスト () | 90 60 30 0 30 60 90 120 150 180 | 筋力テスト () |
| () 前屈 | | 後屈 () | 頸 () 左屈 | 右屈 () |
| () 前屈 | | 後屈 () | 体幹 () 左屈 | 右屈 () |
| 右 () 屈曲 | 180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 | 伸展 () | () 伸展 | 左 () 屈曲 |
| () 外転 | | 内転 () | 肩 () 内転 | 外転 () |
| () 外旋 | | 内旋 () | () 内旋 | 外旋 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | 肘 () 伸展 | 屈曲 () |
| () 回外 | | 回内 () | 前腕 () 回内 | 回外 () |
| () 掌屈 | | 背屈 () | 手 () 背屈 | 掌屈 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | 中手指節 () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | 近位指節 () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 屈曲 | 180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 | 伸展 () | () 伸展 | 屈曲 () |
| () 外転 | | 内転 () | 股 () 内転 | 外転 () |
| () 外旋 | | 内旋 () | () 内旋 | 外旋 () |
| () 屈曲 | | 伸展 () | 膝 () 伸展 | 屈曲 () |
| () 底屈 | | 背屈 () | 足 () 背屈 | 底屈 () |

反射異常

備考

| 上肢腱反射 | | 下肢腱反射 | | バビンスキー反射 | | | |
|-------|---|-------|---|----------|---|---|---|
| 右 | 左 | 右 | 左 | 右 | 左 | 右 | 左 |
| | | | | | | | |

注:

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は $\left\langle \longleftrightarrow \right\rangle$ のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に破線 (\approx) を引く。
- 4 筋力については、表 () に $\times \Delta \circ$ 印を記入する。
 \times 印は、筋力が消失または著減 (筋力0. 1. 2. 該当)。
 Δ 印は、筋力半減 (筋力3 該当)

\circ 印は、筋力正常またはやや減 (筋力4. 5 該当)

- 5 (PIP) の項母指は (IP) 関節を指す。
- 6 DIPその他手の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
- 7 図中塗り潰した部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(\times) 伸展 屈曲 (Δ)